



初夏を告げる 鳥と花 !!



毎朝、犬の散歩と墓参りに出かけます。空模様を伺い、外の温度計を確認して、今日一日を算段します。関東も梅雨に入り今日はどんより梅雨空、朝の最低気温は 20 度を超えていました。ちなみに最高気温は 21.4 度、初夏です。

この季節、「原」（はら；吉岡の台地）では、明け方、「キョッ キョッ キョッキョッキョ！」（てっぺんかけたか）と、爽やかな鳥の鳴き声が響きます。百人一首の「ほととぎす鳴きつる方を眺むればただ有明の月ぞ残れる」、「泣かぬなら鳴くまで待とうほととぎす」で有名な時鳥（ホトトギス）です。自然が豊かで四季のはっきりした日本では、古来より、五感で自然の移ろいを感じていました。草木の花や葉の移ろいや香り、鳥や虫の声、光や風の体感などです。春を告げる鶯（ウグイス）、秋を告げる百舌（モズ）と共に、時鳥は初夏を告げる鳥として人々に親しまれてきました。



ホトトギス

時鳥は、カッコウの仲間です。鳩を一回り小さくした大きさです。インドや中国南部で越冬し、5 月半ば頃、日本に飛来する渡り鳥です。夏場は涼しい山へと移るので、埼玉の里で暮らすのはほんの短い期間です。この鳥は鶯に托卵（たくらん）するちゃっかり者でもあります。鶯の巣から卵を 1 個放り出して産卵し、その後のふ化や子育てを鶯に任せます。卵や雛（ひな）は鶯より一周りも大きいのに、親鳥は異端を排することなく愛情一杯卵を温め続け、餌を運んで育て上げるのだそうです。ホーホケキョの声を聞くと、鶯のけなげさに思いを馳（は）せます。



ウグイス

八幡坂では、野萱草（ノカンゾウ；ツルボラン科ワスレグサ属（別名キスゲ属）の多年草）のユリに似たオレンジの花が咲き始めました。この花は、尾瀬で有名なニッコウキスゲの仲間です。埼玉県では、浦和西高校から第二産業道路までの見沼代用水の土手に約 1km に渡り野萱草や藪萱草（やぶかんぞう）の群生地があり、地元のボランティア団体によって大切に保護されています。この花は、野原や田のあぜ、小川のほとりなどのやや湿り気のある場所に群生する里地・里山の花です。地下茎（ランナー）をのぼし増えていくため、群生します。八幡坂の群生も年々広がってきたように見えます。笹等の下草刈りの成果でしょうか。若芽や花蕾（つぼみ）は食用にされ、根は生薬にもなります。ワスレグサ（忘れ草）の由来は、①朝に開いて夕方にしぼむ一日花で美しい花がたった 1 日しか咲かないため、②花があまりにも美しく嫌なことを忘れられるため、③食べるとおいしくて嫌なことを忘れられるため、3つの説があります。忘れ草の和歌は、1,250 年程前の奈良時代末期の『万葉集』に数首あり、平安時代前期の小野小町の歌集にもあるそうです。古くから日本人に親しまれている野草です。大切にしていきたいと思います。



八幡坂のノカンゾウ



見沼代用水の土手カンゾウ群

6月の活動は、6月11日（日）が雨天のため中止となりました。

5月のアンケート回答に、「文字を大きくして欲しい」、「他地域の活動を紹介して欲しい」との要望がありました。今回は、文字サイズを+0.5P、自然環境や地域活性化等について 2 つの新聞記事を紹介します。（裏面をご覧ください。）

次回活動日

7月9日（日）9:00～11:00（雨天中止）

随時参加者募集！作業に適した服装で、吉中にお集まりください。